



9月18日から10月7日まで定例議会が開催されました。日本共産党は、一般質問を松田まさる県議が、議案に対する質疑を安藤はるみ県議が行いました。閉会後の10日から15日までは決算委員会が行われました。よしまた県議は、常任委員会での質疑を行うとともに、決算委員会で質問に立ちました。

日本共産党 議案のうち、10件に賛成、3件に反対

この議会には、知事から13件の議案が提案されました。日本共産党は10件に賛成するとともに、2019年度補正予算案など3件に反対。安藤県議が一部反対討論を行いました。

他の会派は、すべての議案に賛成しました。

台風19号 被災者支援へ力合わせて

10月半ばに日本列島を襲った台風19号は、各地に甚大な被害をもたらしました。日本共産党はただちに災害対策本部（本部長＝志位和夫）を設置し、高橋ちづ子衆議院議員ら国会議員、地方議員が被災地に入り、現地の党支部と一緒に被災者の要望を聞き取り、政府への要請を行っています。被災者支援へと全力をつくす決意です。

街頭から救援募金の呼びかけ



募金を訴える、さいとうみお党県書記長（右）、よしまた県議（その左）ら＝10月16日、青森市

決算委員会でよしまた県議が質問

用途廃止が 決まった 戸山第一団地 について

戸山第一団地で入居者の転出が続いています。「階段下の草刈りや雪片付けはどうなるのか？」「この場所は将来どうなるのか？」――日本共産党戸山団地後援会に寄せられた相談をもとに、県議会の決算委員会でよしまた県議が質問しました。質疑の一部を紹介します。



すでに入居者がいなくなった階段入り口では、草が生い茂る状況に

よしまた県議：転出者が続くなか、雑草の管理や雪片付けはどうするのか？

県：適切な環境維持をどうするかは課題。町会と連携しながら検討したい。

よしまた県議：今この団地からは人がどんどんいなくなっていて、そうすると草刈りや雪片付けが行き届かなくなってしまうんじゃないかと。また街灯の電気は消されてしまうんじゃないか、こういう心配の声が寄せられています。現地を見てきたんですが、階段の左右全部の人がなくなった所は、入り口を板で塞いでいて、草が生い茂り始めています（右上の写真参照）。現地の人達が心配しているのは、これが住宅全体に広がらないのかと言う事なんです。

用途廃止までの期間、共用部分の維持管理はどのようにする方針でしょうか？

新井田浩県土整備部長：（戸山第一団地の）入居者数が年々減少していく事により、共用部分の十分な維持管理ができなくなる恐れがある事から、用途廃止するまでの間、県営住宅として適切な環境をどう維持していくかが課題であると認識しております。

そのため県としても、町会と連携しながら適切な維持管理が継続的にできるよう今後の対応を検討してまいりたいと考

えております。

入居者がなくなった後の用途は未定

よしまた議員：当該団地はスーパーに隣接しています。戸山団地の真ん中にあります。草だらけにしたり、夜に暗い場所にする事は危険です。県が担ってでもきちんと頂きたいんですが、用途廃止後の利用に関しては、利活用推進会議で相談する事になると（思います）。現瞬間の方針は決まっていないと思いますがそれで良いですね？

県土整備部長：議員ご指摘の通り、廃止を決定した県有施設の利活用につきましては、全庁的な検討な場である県有不動産利活用推進会議において決めていく事になります。従いまして、「今後」と言う事ではありますけれども、県としましては、（庁内の）手続きに基づいて、戸山第一団地についても、有効な利活用を図れるよう取り組んで参りたいと思います。

子育て支援の充実を



決算特別委員会が開催され、2018年度の決算が審議されました。よしまた県議が決算委員会では初めての質問を行い、子育て支援や地域医療の課題、核燃サイクルの問題を質すとともに、河川改修や公営住宅の問題など、地域から寄せられた声を受けて質問しました。

雑木が生い茂って危険

赤川と浪岡川の対策を

青森市東部の赤川と浪岡川について質問しました。赤川は葦が生い茂り、水の流れが見えず、草むらようになっていきます。浪岡川は、かつて雨で氾濫した場所に、再び雑木が生い茂り危険です。よしまた県議は、「景観の問題とともに大雨による氾濫が懸念される。雑木処理や浚渫(しゅんせつ)など早急に」と求めました。

国の指摘を前提とする必要なし

浪岡病院は計画通りに建て替える

9月下旬、厚生労働省が浪岡病院などいくつかの自治体病院の名前をあげ、再編・統合の検討を求めてきました。地域の実情を無視したやり方に、「極めて失礼」(五戸町長)など反発が強まっています。

よしまた県議は、「国の指摘を病院再編の前提にする必要はない」と迫り、浪岡病院について質問。「建て替えが進んでいる以上、廃止や診療所化はありえない。存続がきまったことを尊重するか」と聞くと、有賀健康福祉部長は、「(浪岡病院の建て替えは)地域医療構想に沿ったとくみだ」と答弁し、理解を示しました。

放課後児童会

施設改善の要望に
しっかりこたえるよう

放課後児童会の設備改善について質問を行いました。

よしまた県議は、「昨年夏、青森市内にある放課後児童会のうち、学校の敷地外に設置されている施設のほぼすべてを訪問してきた」と切り出し、「真夏の暑い中、狭く、児童が多く、詰め込まれているところも少なくない」「熱中症の心配もあるが、現場からは、扇風機一つ増やすことすら言い出しにくい状況を感じた」と述べ、県の対応を質問。有賀玲子健康福祉部長は、「環境改善のため、市町村からの申請にもとづき、必要な補助は実施していく」と答弁しました。

学校図書館

充実した教育のため不可欠な施設
司書配置の抜本的な増員を

学校図書館は、単に「本を置いている場所」ということにとどまらず、情報の活用、主体となった学び、教師の教育活動の充実につながる施設です。最近では、子どもたちの心を癒す「第二の保健室」ともいわれています。よしまた県議は、学校図書館を支える司書教諭と学校司書の配置状況を聞くとともに、全国と比べて遅れている学校司書の配置を抜本的に強めることを求めました。

医療的ケア児の支援へ

■部局超えた横の連携をさらに

6月の議会に続き、医療的ケア児の支援体制について質問。医療的ケア児の実数、ニーズ、機材の配置状況などを把握することは、「災害時対応を考えると急務」と指摘。また、県庁でも市町村でも、部局の枠を超えた横の連携をつよめて支援体制をつくるように求めました。

■就学に向けた準備。「早い段階から」(教育長)

医療的ケア児の家族が直面する課題に、就学の問題があります。よしまた県議は、「障害をもった児童が入学してくることは早い段階からわかるはず。早くから情報を共有し、障がい特性に応じた準備を」と求めました。和嶋延寿教育長は、「医療機関や市町村教育委員会などと連携し、早期から支援体制の構築が必要」と答弁しました。

核燃料はサイクルしない!

再生可能エネルギーで新たな地域の活力を

核燃料サイクル路線は、使用済み核燃料が循環(サイクル)して何度も使えるところに目的があります。ところが現実には、再処理工場が動いていないため、核燃料はサイクルしていません。よしまた県議は、「では、再処理工場や大間原発、中間貯蔵施設が動いたと仮定すると、サイクルがはじまるのか」と問い、使用済みMOX燃料とむつ中間貯蔵施設に搬入する使用済み核燃料を再処理する施設があるのか、と質問。県は見通しを示すことはできませんでした。

よしまた県議は、破綻が明瞭な原発・核燃からの撤退戦略を持つべきだと主張しました。



決算委員会で質問するよしまた県議=10月10日